

ダニ媒介感染症

ダニ媒介感染症とは、病原体を保有するダニに刺されることによって起こる感染症のことです。

人が野外作業や農作業、レジャー等で、これらのダニの生息場所に立ち入ると、ダニに刺されることがあります。

ダニがウイルスや細菌などを保有している場合、刺された人が病気を発症することがあります。

主なダニ媒介感染症

調べたい感染症をクリックしてください。

 クリミア・コンゴ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	 回帰熱	回帰熱
 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	 ダニ媒介脳炎	ダニ媒介脳炎
 ツツガムシ病	ツツガムシ病	 日本紅斑熱	日本紅斑熱

マダニに刺されないように注意しましょう

特にマダニの活動が盛んな春から秋にかけては、マダニに刺される危険性が高まります。

草むらや藪など、マダニが多く生息する場所に入る場合には、長袖・長ズボン（シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる、または登山用スパッツを着用する）、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくすることが大事です。

服は、明るい色のもの（マダニを目視で確認しやすい）がおすすめです。

虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われています。また、屋外活動後は入浴し、マダニに刺されていないか確認して下さい。特に、わきの下、足の付け根、手首、膝の裏、胸の下、頭部（髪の毛の中）などがポイントです。

マダニに刺された場合

マダニ類の多くは、ヒトや動物に取り付くと、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いものは10日間以上）吸血しますが、刺されたことに気がつかない場合も多いと言われています。吸血中のマダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとマダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、マダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関（皮膚科）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらってください。また、マダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

啓発ツール

ポスター



【ダニが媒介する感染症】重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・ダニ媒介脳炎・日本紅斑熱・つづが虫病・ライム病 など

ダニに刺されないポイント

- 肌の露出を少なくする
- 明るい色の服を着る
- 虫除け剤を使用する

※野外活動時に入浴し、ダニに刺されてい
ないか確認しましょう。特に、お尻の下、
足の付け根、手足、股関節、脇の下、顔部
（髪の毛の中）などに注意しましょう。

ダニに刺されたときの対処法

- 患部に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（ダニの除去、洗浄など）
をしてもらいましょう。
- ダニに刺された後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が
認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

ペットのダニ対策

- ダニ駆除剤の使用等について獣医師に相談。
- ペットが外から帰宅したらダニがついていないか確認。
- ダニが皮膚に食い込んでいる場合は動物病院へ。

※ペットを介して、家や屋内にダニが持ち込まれることがあります。

発症時に伝えること

- ①ダニに刺されたこと
- ②野外活動の日付
- ③場所
- ④発症前の行動





今年も あなたの血を狙って 奴らがやってくる!

～ダニ・蚊の襲来に備えよ～

草むらに入るときは注意しよう!

肌の露出を減らそう!

虫よけ剤を使おう!

ペットの虫よけも万全に!

蚊やダニは病気を持っているものもあり、咬まれないことが大切です。

【ダニが媒介する感染症】重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)、ダニ媒介脳炎、日本紅斑熱、つつか虫病、ライム病 など
 【蚊が媒介する感染症】日本脳炎、デング熱、チクングニヤ熱、ジカウイルス感染症 など

蚊・ダニに咬まれないポイント

蚊・ダニ共通対策

- 肌の露出を少なくする
 - 長袖・長ズボンを着用する
 - 足を完全に覆う靴を履く(サンダルなどは避ける)
- 明るい色の服を着る
- 虫除け剤を使用する

ダニ対策

- 帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻くなど
 - シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる
- ※野外活動後、特に首、耳、わきの下、足の付け根、手首、腰の裏などに注意しましょう。



蚊媒介感染症

厚生労働省



ダニ媒介感染症

厚生労働省



※各自治体の保健所等の窓口については各自治体HPも参考にしてください。



山ありダニあり

ダニが媒介する感染症から身を守るために

畑での農作業
 茂みでの草刈り
 山の中で山菜採りや
 狩猟をするとき
 ダニがあなたを狙っている。

(出演)
 田畑 草子 着
 羽肌 出山 狩人
 衣出 山菜



フルカラー
 総天然色

KORO FILM

【ダニが媒介する感染症】重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・ダニ媒介脳炎・日本紅斑熱・つづが虫病・ライム病 など

- ダニに咬まれないポイント**
- 肌の露出を少なくする
 - 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する
 - シャツの袖はズボンの中に、ズボンの裾は裾下や長靴の中に入れる
 - 帽子・手袋を着用し、首にタオルを巻くなど
 - 足を完全に覆う靴を履く(サンダルなどは避ける)
 - 明るい色の服を着る
 - 虫除け剤を使用する
- ※虫除け剤は入り直し、ダニに咬まれていないか確認しましょう。首に、おきの下、足の付け根、手首、膝の裏、腕の下、指間(足の指の間)などに注意しましょう。



- ダニに咬まれたときの対処法**
- 無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科など)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらいましょう。
 - マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けてください。

受診時に医師に伝えること

- ①野外活動の日付
- ②場所
- ③発症前の行動

ダニ媒介感染症 対応方法

PDF [2018年 山あり ダニあり \[6.7MB\]](#)

リーフレット

「ダニ」にご注意ください

山や草むらでの野外活動の際は、ダニに注意しましょう

春から秋にかけてキャンプ、ハイキング、登山など、山や草むらで活動する機会が多くなる季節です。

野山に生息するダニに咬まれることで

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介感染症、日本紅斑熱、つづが虫病、ライム病などに感染することがあります。

ダニに咬まれないためのポイント！

- 肌の露出を少なくする
⇒帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等
- 長袖・長ズボン・登山用スパッツ等を着用する
⇒シャツの裾はズボンの中に、ズボンの裾は靴下や長靴の中
- 足を完全に覆う靴を履く
⇒サンダル等は避ける
- 明るい色の服を着る（マダニを目視で確認しやすくするため）
× 上着や作業着は原色の中に紛れ込みにくいようにしましょう
× 野外活動後に入浴し、マダニに咬まれているか確認しましょう
特に、お尻の下、足の付け根、耳の裏、脇の下、陰部（髪の毛の中）などに注意



ダニに咬まれたときの対処法

- 無理に引き抜こうとせず、医療機関（皮膚科など）で処置（マダニの除去、洗浄など）をしてもらいましょう。
- マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

【受診時に医師に伝えること】

①野外活動の日付け、②場所、③発症前の行動



ダニ媒介感染症（厚生労働省）

各都道府県の保健所や保健センターで詳しくはご確認ください。

平成29年4月

PDF [「ダニ」にご注意ください \[778KB\]](#)

その他



[PDFファイルを見るためには、Adobe Readerというソフトが必要です。Adobe Readerは無料で配布されていますので、こちらからダウンロードしてください。](#)